

# バリフルーツと観光業

中野 八伯  
(農学部附属農場指宿植物試験場)

## はじめに

バリ島はインドネシア・ジャワ島東部に位置する面積5653km<sup>2</sup>、人口約320万人の島である。13世紀、ジャワ島のヒンズー教徒がこの地に逃れ、独特の宗教文化・バリヒンズーが開花することになる。以来、バリの豊かな自然とバリヒンズーによる自然信仰を観光メソッドとして活用し、現在のリゾート地としての確固たる地位を築いた。毎年800万人を超える観光客が訪れるバリ島。今回は観光客を魅了し続けるバリフルーツの調査を行った。



バリ島全図

## バリ島食糧事情

バリ島における天下の台所、島北部山間のブドゥグル村に向かった。リゾートホテルが建ち並ぶ南部エリアは、高温と開発による水質汚染のため、農産物生産には向かず、バリの人々やリゾート地に供される食糧のほとんどがこのブドゥグル地方において生産される。

ブドゥグルの朝市をのぞいてみた。なるほど多様なラインナップである。マンゴー、パパイヤ、マンゴスチン、タマリロ、サラック、バナナなど、色とりどりのトロピカルフルーツが市場を彩る。他にも青果物、香辛料なども揃っており、しかもそれらのほとんどが朝獲りのようだ。バリの食をまかなっているという自負と、観光客が立ち寄らない市場ということもあり、ブドゥグルの方々の気性は少々荒めである。



青果物を積んだトラックが次々とリゾート地方面へ出発するのをながめながら、これからもバリの台所を支えてほしいと願うばかりである。

次に、島中部の村・ルースにあるバリ州管轄の農業試験場に向かった。

ここでは、ドリアン、マンゴスチン、リュウガンの苗木生産やランの育種を行っており、今後は日本人やオーストラリア人観光客向けに、アボカドの普



ドリアンの樹の下で

及に力を入れる予定なのだという。

リゾート地としての更なる発展のため、現状に満足せず、農業の裾野拡大に尽力する姿勢がここにはあった。

### バリ島のナーセリー

リゾート地サヌール近郊にある果樹苗屋を訪れた。このナーセリーではマンゴー、リュウガン、レンブ、マンゴスチン、ドリアン、ジャックフルーツ、タマリンド、カンキツ類など多種多様の熱帯果樹苗を取り扱っており、品種も在来種から経済栽培用品種まで揃っていた。さすが本場の熱帯である。客足が途絶えないにもかかわらず、外国人の私にも非常に親身に対応して下さった。

従業員の方々によるとバリ島には好奇心旺盛な栽培農家や個人単位でのフルーツ栽培愛好家が多いため、常に島外から新品種導入を行う必要があるようである。そのためか年々販売品目も変わるので、定期的に求めて欲しいとのことであった。



ナーセリー全景

### 感想および考察

今回は、バリ島におけるホテルや飲食店に提供されるバリフルーツの裏側取材してみたが、バリ観光業の成功裏には、バリヒンズー文化の継承や観光客へのもてなしだけでなく、島内各産業の振興など、これらすべてが相互に機能し、バリ島における6次産業の発展に帰結していると感じた。農産物だけでなく、宗教、伝統芸能、工芸品などバリ島で生まれたすべてのモノを観光業の場で消費するサイクルがあり、これは資源のないバリ島ならではの努力の賜物であろう。

大学職員としてなしうる地域社会貢献のありかたに対するヒントをこの島で見つけることができた。指宿のホスピタリティを詰め込んだ果物を観光客の方々に提供できる日が来ることを願ってやまない。